栃木県　里山林整備マニュアル別冊
里山林整備事業を活用した事例集

平成 25 年 3 月

栃　木　県

目　次

提案型里山林整備モデル事業

１　那珂川町　小砂　（小砂２）

生物多様性モデル林整備事業

１　市貝町　田野辺　（サシバの森）

将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

１　足利市　寺岡町　（岡崎山）
２　真岡市　伊勢崎　（ふれあいの森伊勢崎）
３　大田原市　福原　（福原）
４　矢板市　東泉　（矢板中央高校東泉グラウンド里山林）
５　益子町　前沢　（前沢町有林）
６　茂木町大字上菅又　（上菅又）
７　高根沢町　上柏崎　（元気あっぷむら自然の森）

通学路や住宅地周辺の安全・安心を確保するための里山林整備事業

１　壬生町北小林　（壬生北小学校周辺）

野生獣被害軽減のための里山林整備事業

１　栃木市　西方町　（西方町全域）
２　鹿沼市　深程　（深程）
３　日光市　明神　（明神）
４　塩谷町　船生西古屋地内　（西古屋）

【事例集　提１】

メニュー名	提案型里山林整備モデル事業				
所在地 （箇所名）	那珂川町小砂 （小砂２）		整備年度	平成24年度～	
事業概要	実施主体	那珂川町	整備概要	除間伐	１．０ha
	管理団体	那珂川町林業振興会		やぶ刈払い	５．０ha
	整備面積	５．００ha		ため池整備	１式

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

棚田とため池及びその周囲のコナラ林を中心とした環境であり、区域内の水辺に水生植物のヒシやゲンジボタル、イトトンボが生育・生息しており、この地域の典型的な里山の生態系を形成している。棚田の休耕により、こうした環境が変化しつつあり、区域の森林整備と併せて里山環境の整備を目的に本事業を導入した。

メニュー名	提案型里山林整備モデル事業

【整備方針】

・自然観察会や野外音楽会を開催し地域資源への理解を深め、自然とふれあう場を創出する。
・やぶの刈払いを実施する際、一般参加者を募り、里山林を守る輪を広げる。
・里山林における自然環境の重要性を発信するためPR用DVDを製作する。

【整備の特徴】

・本来の里山の風景を維持するため、森林整備に併せてため池、小川等の水辺の環境を整備し、ホタルなどの水生生物が生息できる良好な里山環境を目標とした整備をする。

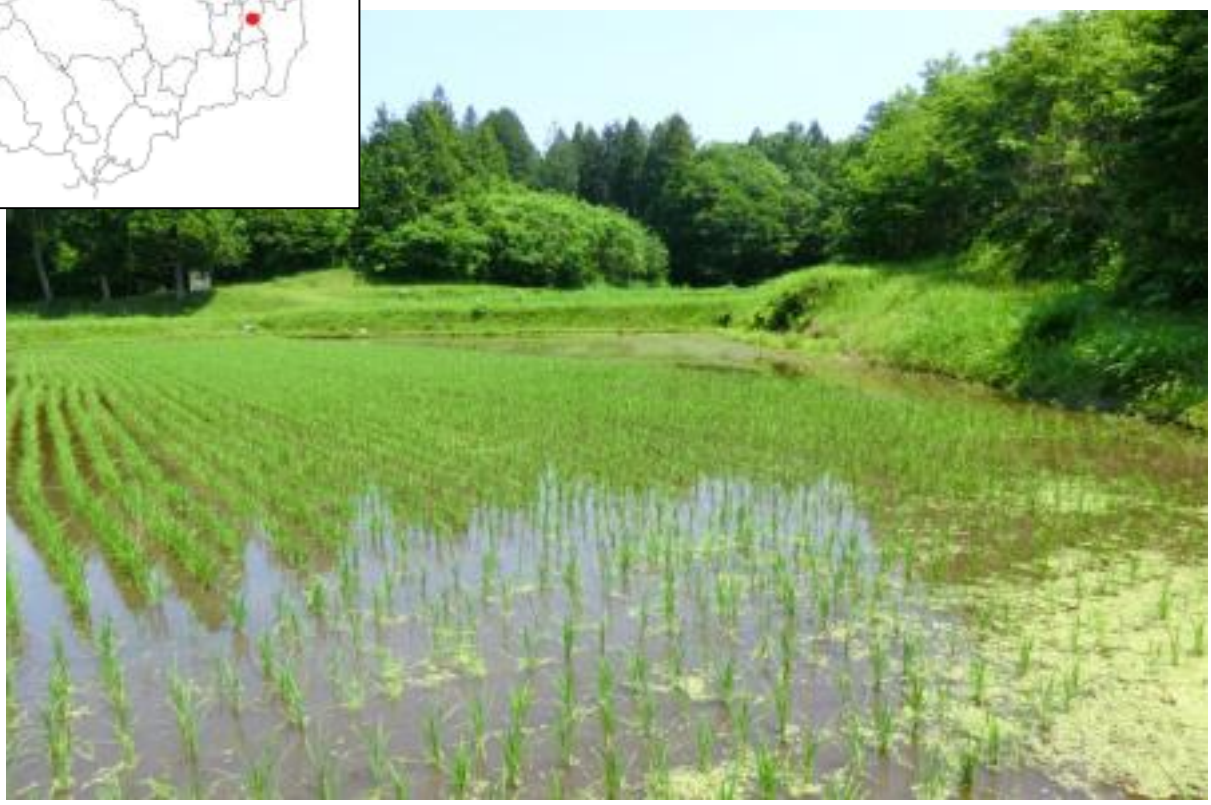
・森林を整備した空間に展望台やブランコ等の遊具を整備し、森林空間での活動体験ができるようにした。

・クラフトづくりや里山の遊び体験のイベントを実施し、自然とふれあう場を創出している。

・那珂川町林業振興会の従前からの活動にからめた整備を実施しており、今後も環境整備や四季を通した森林空間の活用を計画している。

【事例集　生多１】

メニュー名	生物多様性モデル林整備事業				
所在地 （箇所名）	市貝町田野辺 （サシバの森）		整備年度	平成23～24年度	
事業概要	実施主体	市貝町	整備概要	森林整備	2.0ha
	管理団体	NPO法人オオタカ保護基金			
	整備面積	2.0ha			



【整備の必要性・経緯など】

市貝町の北部に位置し、絶滅危惧種であるサシバの繁殖地となっており、地元の住民を中心に自然観察会等を行っている。近年、NPO法人オオタカ保護基金が本区域内の遊休農地をサシバのえさ場となる水田に復元した。併せて、水田に隣接する森林の整備を行うことにより、サシバのえさとなる生物の住みやすい環境を作り出し、サシバの繁殖に適した森林を目指した。

メニュー名	生物多様性モデル林整備事業

【整備方針】
・NPO法人オオタカ保護基金が中心となり、下草刈り及び調査等を行っていく。

【整備の特徴】
・竹や笹が繁茂していたが、下草刈りにより林床に日が当たるようになった。

・隣接する遊休農地も水田として復元して水稲の作付・収穫も行った。これにより生き物の数と種類が増え、これらをえさとするサシバも飛来するようになった。

・オオタカ保護基金が、当整備箇所で自然観察会を開催し、自然とのふれあいの場を提供するとともに、税事業を取り入れて整備したものであることをPRしている。

【事例集　将１】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	足利市寺岡町 （岡崎山）		整備年度	平成21年度	
事業概要	実施主体	足利市	整備概要	森林整備	除間伐、下刈り ５．０ha
	管理団体	寺岡町自治会 （岡崎山の自然を守る会）		植栽	60本
				歩道整備	３５０m
	整備面積	５．０ha		標識	1基

【整備の必要性・経緯など】

足利市の東部、旗川沿いにある岡崎山は標高５３mの小さな山であるが、周囲が平坦のため関東平野を一望できる景勝地である。ここには寺岡元三大師や古墳群などがあり、古くからの歴史や文化を有している。

かつて人々の生活と深く関わり、また遊び場であった里山も、時代の移り変わりとともに利用されなくなり、森林の手入れが不十分な状態にあった。昔のような地域の里山林を取り戻そうと寺岡町自治会を中心とした「岡崎山の自然を守る会」により、「地域の憩いの場」として再生を図ることとした。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・地域の方が親しめる里山を目指し、サクラやツツジ、アジサイ、萩などを植栽し、四季を通じて楽しめるようにした。

【整備の特徴】

階段を整備して歩きやすく

みんなで下刈り実施

下刈り実施後

休憩用にベンチを設置
沿道にはアジサイを植栽

山頂付近にある野点所
昭和天皇の陸軍演習視察を記念して建てられた。

【事例集　将２】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	真岡市伊勢崎 （ふれあいの森伊勢崎）		整備年度	平成23年度	
事業概要	実施主体	真岡市	整備概要	森林整備	５．５ｈａ
	管理団体	ふれあいの森伊勢崎		歩道整備	６５０ｍ
	整備面積	５．５０ha			

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

　真岡市伊勢崎地域は真岡市住宅地街に隣接しながらも奇跡的に残された平地林である。しかし、長年手入れがなされていなかったため、うっそうとし、冬季には道路凍結の一因にもなっていた。

　そこで、森林の所有者、地域の代表が話し合い、この林を昔のように虫捕りやきのこ採りができる地域の憩いの場として再生させることにした。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・地域の方が散策や虫捕り、きのこ採りに気軽に訪れる「里山」にする。
・できる人ができることを、無理のない範囲で実施する。

【整備の特徴】

・明るい広葉樹林への誘導を目指し、特に住宅地に隣接していた木はばっさり伐って「暗くこわかった」道も「明るく安心な」散歩道に生まれ変わった。

・伐採木はベンチやテーブルに加工。皆の憩いの場として整備した。作業の後、ここでのひと時が楽しみのひとつ。

・細い木や枝は歩道沿いに並べ、アジサイやオモトを植栽した。花の咲く時期が楽しみである。

【事例集　将３】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	大田原市福原 （福原）		整備年度	平成20年度	
事業概要	実施主体	大田原市	整備概要	間伐	８．３４ha
	管理団体	大田原市里山保存会 （大田原市林業振興会）		残材処分	２００m^3
				看板設置	１式
	整備面積	８．３４ha		植栽	１式

【整備の必要性・経緯など】

大田原市南部に位置し、市の宿泊研修施設「ふれあいの丘シャトーエスポワール」に隣接する森林であり、多数の市民と施設利用者の目にふれる森林である。林内には歩道も整備され環境学習等で利活用されていたが、森林については一部で密になり、一部でやぶ化していた。また、林内に伐採木が残され景観が悪かった。

このため、間伐、残材処分を実施した。また花木の植栽や看板類を整備し、利用者の利便性を向上した。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・森林が密になってきていたため間伐を実施し、林内を明るくする。
・林内に残材があったため残材処分を実施し、活動しやすくする。
・利便性向上のため案内標識と指導標識を設置する。

【整備の特徴】

・間伐と林地残材処分により見た目も良く、林内で憩うことのできる森林になった。特に施設に隣接する箇所では林内での活動がしやすくなっている。

・利便性向上及び事業のPRのため標識類を整備した。

・林内の散策路沿いに花木の植栽を実施した。

【事例集　将４】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	矢板市東泉 （矢板中央高校東泉グラウンド里山林）		整備年度	平成21年度	
事業概要	実施主体	矢板市	整備概要	森林整備	５．０２ha
	管理団体	矢板中央高校サッカー部 保護者会		植栽	１５本
				歩道整備	１，２３０m
	整備面積	５．８７ｈａ		休憩用ベンチ	２箇所

【整備の必要性・経緯など】

　強豪矢板中央高校のサッカーグラウンドである当地には、交流試合等で県内外から多くの方が訪れ、また、地域の方々も散策に訪れる里山林に囲まれている。
　しかし、長期にわたって里山林に手が入らなかったことによりうっそうとした状態となっており、せっかくのロケーションを生かせていなかった。
　このため、里山林を整備し、地域の方々にこれまで以上に愛される場所を目指すこととした。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・近隣住民及びサッカー関係で県内外から訪れる方に、サッカー場に隣接した里山林を散策してもらうことで、森林のよさを実感し、森林の重要性を再認識してもらう。
・散策路からサッカー場を見下ろせるようにし、交流戦等で訪れた他校生徒等にも里山林のよさを味わってもらえるよう工夫した。

【整備の特徴】

・広葉樹を強度に間伐し、明るい里山林にすることで森林の心地よさを演出した。

・木柵をベンチとして利用できるようにし、サッカーの観戦や散策の休憩ポイントとして整備した。

・歩きやすく、森林のめぐみを感じられる歩道とするため、伐採木はチップ化して歩道に敷きならした。

【事例集　将５】

メニュー名	将来まで守り育てる里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	益子町前沢 （前沢町有林）		整備年度	平成22～23年度	
事業概要	実施主体	益子町	整備概要	下刈り	
	管理団体	益子町		歩道整備	
	整備面積	１５．８ｈａ			

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

益子町前沢地域は、益子町南部に位置する山あいの地域で、区域内には林道・展望地を有し、住民に親しまれている地域である。この前沢町有林には、約16,000本のサクラが植栽されていているが、近年植栽地の手入れがされていなかったため、やぶが生い茂っている状態になっていた。

そこで、身近にサクラをを観賞できるようにしたり、景観保全や自然とのふれあい機能を向上させるために、下刈りや花木の手入れを行い、親しみやすい環境を整えていくこととした。

メニュー名	将来まで守り育てる里山林整備事業

【整備方針】
・地元住民だけでなく観光客にも森林にふれあう機会を提供し、自然とのふれあいを通して森林を社会全体で支えるという意識の醸成に努める。
・将来的には遊歩道や展望台、憩いのスペースなどを整備して、サクラの名所であったり、四季折々の花が楽しめるような自然環境を整えていく。

【整備の特徴】
・林道沿いの草やぶを刈り払い、沿線の見通しや林道からの景色も良くなった。

・下刈りを行った後に歩道を整備し、景色を楽しみながら山頂まで登れるようにした。

・生い茂ったやぶを刈り払い、山頂から360度にわたり眺望が楽しめるようになった。

【事例集　将６】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	茂木町大字上菅又 （上菅又）		整備年度	平成23年度	
事業概要	実施主体	茂木町	整備概要	森林整備	下刈り　5.0ha 不要木の伐採
	管理団体	下菅又里山保存会		植栽	１式
	整備面積	５．０ha		歩道整備	L=370.0m

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

　芳賀台地農業水利事業により造成された調整池に隣接する里山で市街地から程近い立地であるが、荒れた状態になっていた。
　国道294号に近く交通量も多いことから、茂木町のシンボルとして、また、自然と親しむ地域の憩いの場または観光資源として整備を行った。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・地域の方が気軽に訪れて、憩いの場となるような「里山」にする。
・訪れた方が心から癒されるような、「セラピーロード」して遊歩道を整備する。

【整備の特徴】

・シノが対象地全域に群生してしまい、踏み込むこともできなかった山林の刈り払いを行った結果、美しい広葉樹林として復活した。

・伐採木はベンチやテーブルに加工。整備されたことで調整池を望むことができ、のんびりとしたひと時を過ごせる。

・セラピーロードとして遊歩道を整備。優しい木漏れ日の中を歩けば癒し効果もバツグン。

【事例集　将７】

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	高根沢町上柏崎 （元気あっぷむら自然の森）		整備年度	平成２２～２４年度	
事業概要	実施主体	高根沢町	整備概要	森林整備	５．９４ha
	管理団体	高根沢町		植栽	３３本
	整備面積	平成２２年度２．０６ｈａ 平成２３年度２．０２ｈａ 平成２４年度１．８６ｈａ		歩道整備	約１，０００ｍ

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

温泉施設元気あっぷむらに隣接する元気あっぷむら自然の森は、地域住民の散策コースにもなっているが、長年の間整備がされずにいたためにやぶ化し、薄暗い状態となっていた。

里山林を整備し、陽が差し込む自然ふれあい活動の場として広く活用することができる環境となることを目指した。

メニュー名	将来まで守り育てるとちぎの里山林整備事業

【整備方針】

・古木が多く、樹木密度も高かったため、主に樹齢の高い木を伐採した。伐採跡地には将来、染料として利用できるような樹木を選んで植栽し、樹木案内板を設置し、樹木を観察して回れるよう歩道を整備した。

【整備の特徴】

・ボランティアを募集し、伐採木の集積・運び出し作業を行った。
・伐採木の一部は、希望する町民に無償配布し、活動の広報に役立てた。

・木道の整備には、奥山林搬出材を利用し、資源の有効活用を図った。

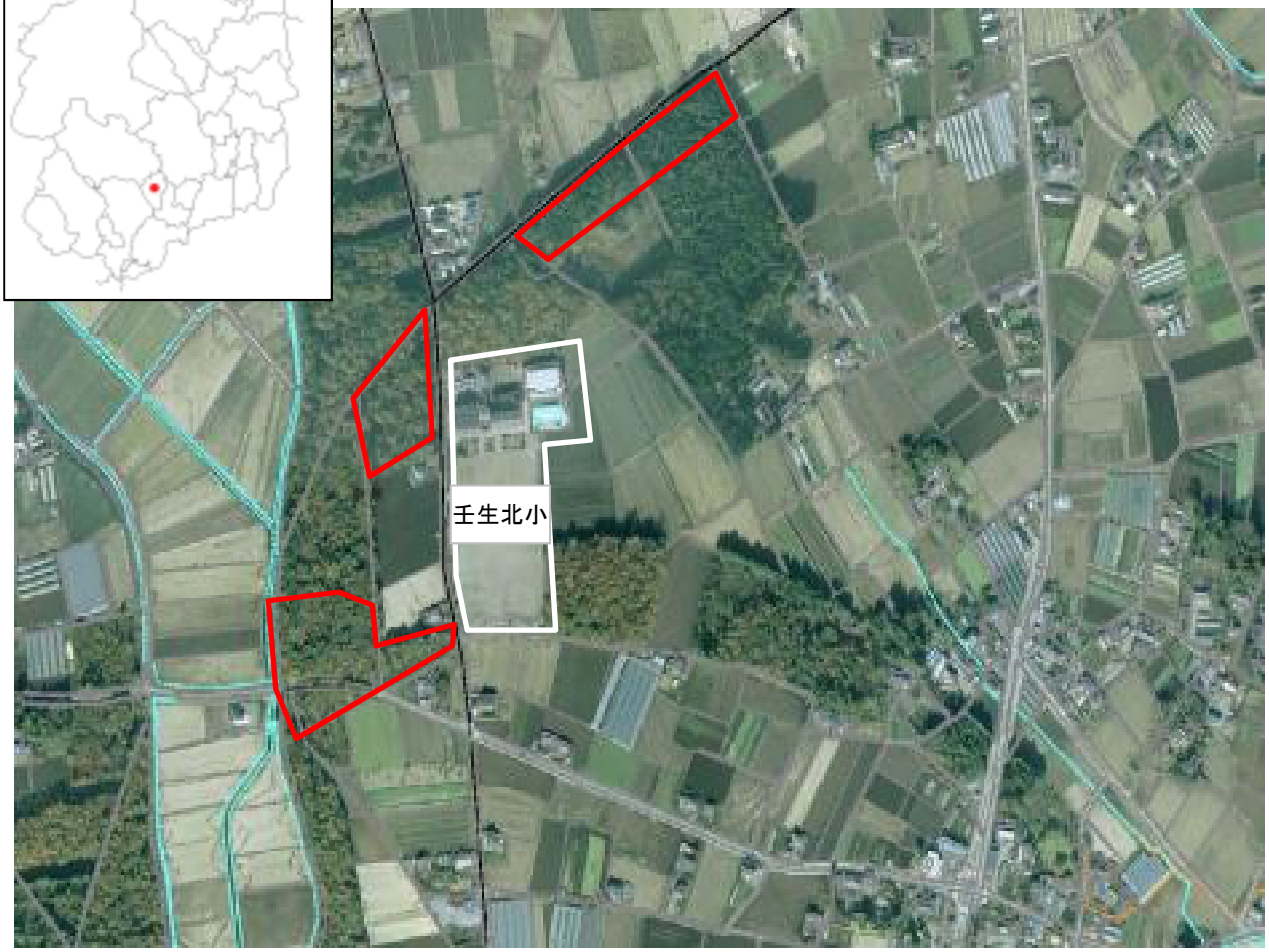
・間伐後には、染色に有効利用できるものを植樹し、自然ふれあい活動の一環となるよう考慮した。

・植樹した樹木付近に案内板を設置し、森林環境の学習にも利用できるようにした。

【事例集　通１】

メニュー名	通学路や住宅地周辺の安全・安心を確保するための里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	壬生町北小林 （壬生北小学校周辺）		整備概要	平成22年度	
事業概要	実施主体	壬生町	整備概要	不要木の除去	２．５ha
	管理団体	壬生町		やぶ刈払い	２．５ha
	整備面積	２．５ha			

【位置図】



【整備の必要性・経緯など】

壬生北小学校は学校林を有するなど自然に恵まれた環境にあるが、通学路周辺に残る平地林の中にはやぶ化して見通しが悪い場所がある。登下校における児童の安全を守り、安心して利用できるよう、やぶの刈り払いを行い、毎年下草刈りを実施している。

メニュー名	通学路や住宅地周辺の安全・安心を確保するための里山林整備事業

【整備方針】

・やぶや下草を刈り払うことで、明るく見通しの良い通学路にする。歩道がなく車道もせまいことから、交通事故の防止にも役立っていると学校や保護者から好評を得ている。

【整備の特徴】

【整備前】

【整備後】

見通しの良くなった通学路周辺の里山林

【事例集　獣１】

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	栃木市西方町 （西方町全域）		整備概要	平成20～23年度	
事業概要	実施主体	栃木市	整備概要	不要木の除去	１３３．０５ha
	管理団体	栃木市		やぶ刈払い	１３３．０５ha
	整備面積	１３３．０５ha		下草刈り	１３３．０５ha

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

西方地区は周囲を山林で囲まれており、野生獣による農作物被害や林地・農地の被害が増加し、深刻な問題となっていた。野生獣による被害の軽減を図るため荒廃している山林を整備し、環境の保全を図る必要があるため、下草刈りを実施し環境整備に努めた。

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業

【整備方針】

・イノシシの被害は、西方町の山地周辺のほぼすべての農地に拡大していた。このため、農地を線状に取り囲むように周囲の山林を整備し、徹底した被害の拡大防止、軽減を図った。整備の内容は不要木の除去ややぶの刈払いを行い、イノシシが隠れる場所の排除を図った。

【整備の特徴】　【整備前】　【整備後】

【事例集　獣２】

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	鹿沼市深程 （深程）		整備概要	平成２２～２３年度	
事業概要	実施主体	深程自治会	整備概要	やぶ刈払い	10.58ha
	管理団体	深程自治会		不要木伐採	6.94ha
	整備面積	H22: 3.64ha H23: 6.94ha 今後も整備を進めます。			

ただいま作業中

【整備の必要性・経緯など】

鹿沼市深程地区では従前からシカの農業被害に悩まされてきたが、10年程前からイノシシの出没が増加。周辺の森林もやぶ化しているため、被害も急増しその対策が急務であった。

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業

【整備方針】

・野生獣被害が発生する田畑に隣接する里山林等を整備し、野生獣が人里に近づきにくい環境を創出する。

【整備の特徴】

・里山林整備を自治会により実施、さらに宇都宮大学の協力により講師を招き学習会を実施するなど、総合的な対策により、獣害に強い集落づくりを進めている。
・除伐したタケの処理など侵入竹対策支援事業を活用し精力的に整備している。

整備前のやぶ化した林分

里山整備部会のみなさん

整備後

竹のチッパー処理

【事例集　獣３】

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	日光市明神 （明神）		整備年度	平成21年度	
事業概要	実施主体	日光市 明神自治会イノシシ対策委員会	整備概要	やぶ刈払い	10.3ha
	管理団体	明神自治会イノシシ対策委員会			
	整備面積	10.3ha			

【位置図】

整備後の風景

【整備の必要性・経緯など】

日光市明神地区では従前からニホンザル、シカの農業被害に悩まされてきたが、10年程前からイノシシも出没するようになり、その対策が急務であった。

平成19年度に県補助事業（農政部）を活用し、電気柵を設置。管理班を編制。周囲の森林もやぶ化しているため、平成21年度から里山林整備事業を活用し緩衝帯整備に取り組んでいる。

メニュー名	野生獣害軽減のための里山林整備事業

【整備方針】

・野生獣被害が発生する田畑に隣接する里山林等を整備し、野生獣が人里に近づきにくい環境を創出する。

【整備の特徴】

・電気柵の整備・管理とあわせて、里山林整備を実施、さらに宇都宮大学の協力により講師を招き学習会を実施するなど、総合的な対策により、獣害に強い集落づくりを進めている。
・実施箇所の下刈りを自治会内で班を編制し、当番制で実施しており、通年にわたり確実に実施している。

整備前のやぶ化した林分

自治会が集まり獣害学習会実施

整備箇所と電気柵の管理

【事例集　獣４】

メニュー名	野生獣被害軽減のための里山林整備事業				
所在地 （箇所名）	塩谷町船生西古屋地内 （西古屋）		整備年度	平成23年度	
事業概要	実施主体	塩谷町	整備概要	除間伐	４００本
	管理団体	塩谷町		刈払い	６．００ｈａ
				不要木除去	６００本
	整備面積	６．００ｈａ		枝落とし	３００本

【位置図】

【整備の必要性・経緯など】

シカ等による農作物への被害が恒常的に発生していたため、農家自ら防護ネットを設置して対策を行ってきたが、効果が限定的であった。また、ツキノワグマの出没事例も増加していたため、野生獣を近づけないための対策が求められていた。

メニュー名	野生獣被害軽減のための里山林整備事業

【整備方針】

・里山林と農地の間に電気柵を整備し、定期的な保守を行うことで野生獣を寄せ付けない地域とする。

【整備の特徴】

・整備地区は整備以前はシカ等の野生獣による田畑の被害が恒常化しており、農家自身による電気柵や防護ネットの設置を行っていたが効果は限定的であった。
・田畑に隣接する森林が野生獣の出没源となっていたため、森林の間伐・刈払い・枝落としを行うことによって見通しを良くし、野生獣が出にくい環境を作った。

・農地を取り囲むように電気柵が設置され、里山林を整備したことと合わせて被害軽減に役立っている。
・整備後は整備箇所に横断幕を設置し、みんなの元気な森づくり県民税の整備事例として、事業の周知にも役立っている。